



内子座 藝於遊



瓦の調査

令和8年4月30日、瓦の身体検査（！）が行われました。というのは比喻ですが、内子座の鬼瓦をはじめとする役物瓦の一つ一つが体重計に乗せられ、重さが計られていました。

内子座の屋根から瓦が下ろされてから早7か月が経ちますが、その間、すべての瓦が調査され、再使用する・しないが決められていき、新しく焼く瓦の数量がはじき出されてきました。結果、およそ4割の瓦が再使用できる見込みで、当初の想定よりも多くの瓦が再び内子座の屋根に戻ってこれそうです。

また、新しく焼くための見本となる瓦も選定が進み、それらの瓦について、重量を含めた調査が行われました。見本となる瓦は、大正時代に焼かれた創建当初のオリジナルの瓦から選ばれ、金型作製の工程へと移っていきます。なお、再使用する瓦も、焼き直しの作業が行われます。



重量測定の様子
(4月30日撮影)

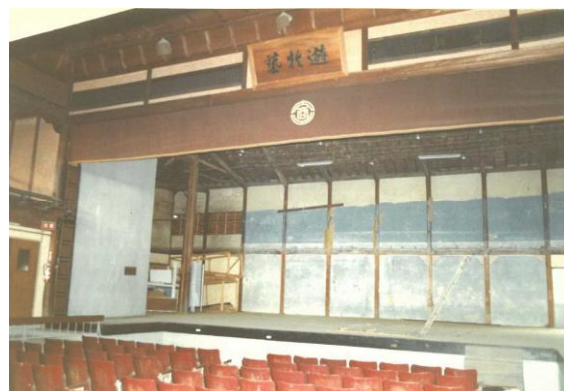


▲写真左：新しく焼く瓦の見本となる瓦を選択するため調査している。写真中：見本となった瓦を再度調査・確認している様子。写真右：瓦の調査シート。どのように対応していくかが細かく書かれている。

舞台北側の壁



昭和の復原改修工事に入る前に撮影された写真（右）では、舞台北側の壁が青く塗られている写真がありました。なぜ青かったのか、理由ははっきりしていませんが、いつの時代かに舞台背景として塗られたのでしょうか。今回、舞台北側床付近の解体をしたところ、当時の壁の破片が出てきました。歴史を物語ってくれる大切なかけらです。



▲昭和57年頃撮影と思しき内子座内部。商工会館ながら映画館時代のいすも健在。